

## 新潟大学 人を対象とする研究等倫理審査委員会 オプトアウト書式

① 研究課題名	寛骨臼形成不全例における大腿骨大転子頂部および小転子頂部座標を利用した大腿骨頭中心座標の推計
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
<b>【対象】</b> 2008年から2017年の間に新潟大学病院で寛骨臼形成不全に対して寛骨臼回転骨切術を施行された症例、男性約20例、女性約80例 <b>【研究期間】</b> 新潟大学医学部倫理審査委員会承認後から2028年3月31日まで <b>【過去の研究課題名】</b> なし	
③概要	
人工股関節全置換術を行う際、大腿骨頭中心を本来の位置に再現し、軟部組織バランスを保たせることがときに必要となります。しかしながら人工股関節全置換術を受ける患者の多くは両側性で、すでに変形を来しているケースも少なくありません。そのため、どの位置に大腿骨頭中心を設定し、術前計画を立てるか、迷うことがあります。我々は先行研究として健常ボランティア例において、大腿骨頭中心からの大腿骨大転子頂部と小転子頂部の座標値を用い、回帰式を用いて大腿骨頭中心座標の推計を報告しました (Imai N, et al. Sci Rep 2023)。しかしながら大腿骨形態が異なる寛骨臼形成不全例において大腿骨頭中心推定に関する報告は見られません。	
④申請番号	2025-0250
⑤研究の目的・意義	本研究の目的は寛骨臼形成不全例の CT から再構築された三次元大腿骨骨モデルを用いて、大転子頂部および小転子頂部の座標値から大腿骨頭中心座標を推計できるか調査することです。 寛骨臼形成不全例において大腿骨頭中心位置の推定ができればもともとの大腿骨頭中心位置が分からない例においても大腿骨頭を至適位置に再現することが可能になると考えられます。
⑥研究期間	新潟大学医学部倫理審査委員会承認後から2028年3月31日まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	手術前にすでに撮影された画像から計測を行うため、追加する検査もなく、対象者に不利益が生じることはないと考えられます。利用は当院のみで行います。使用するデータは個人が特定されないように匿名化を行い、研究に使用します。研究の成果は、学会や専門誌などの発表に使用される場合がありますが、名前など個人が特定できるような情報が公表されることはありません。
⑧利用または提供する情報	2008 年から 2017 年の間に新潟大学病院で寛骨臼形成不全に対

の項目	して寛骨臼回転骨切術を施行された症例，男性約 20 例，女性約 80 例
㊟利用の範囲	新潟大学大学院医歯学総合研究科 健康寿命延伸・運動器疾患医学講座および整形外科
㊟試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学大学院医歯学総合研究科 健康寿命延伸・運動器疾患医学講座 今井 教雄
㊟お問い合わせ先	新潟大学大学院医歯学総合研究科 健康寿命延伸・運動器疾患医学講座 今井 教雄 025-227-2272 lmainorio2001@med.niigata-u.ac.jp